

- 山形県の農業就業人口の45.3%は女性であるが、高齢化が進行しており、40歳未満の女性農業者はわずか2.1%のみ。**地域農業活性化のため若い女性農業者の育成**が必要。
- 若い女性農業者は孤立しがちで、**生産現場で女性が一層活躍できる環境づくりを支援し、女性の農業分野における活躍の促進**が必要。
- **若い女性限定の経営講座の開設。優良事例集の作成、広報。**
- 若い女性農業者が**ビジネスプランを作成 18名。経営力・営農意欲が向上。地域における仲間づくりが進展。**

## 具体的な成果

## 目標を達成するための普及活動

## 1 若い女性農業者のビジネスプランの作成による経営力・営農意欲の向上

■ 若い女性農業者のビジネスプランの作成を支援し、18名が作成・ビジネスプランの作成とプランの実現に向けた実践支援を通し、将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力・営農意欲が向上。



## 1 若い女性限定の講座の開設

■ **ビジネスプランの作成を支援**

- ・講義とともにグループ討議や個別演習、「ビジョンコラージュ」の制作等女性が取り組み易い講座の工夫
- ・先進的な女性農業者の視察研修
- ・先進的な女性経営者のもとで、インターシップの実施
- ・女性限定の農業機械管理、操作研修
- ・生産現場でのアシストスーツの実証

■ **ビジネスプラン実現に向け、総合的な個別支援の展開**

- ・受講生毎に技術担当と経営担当の普及指導員を配置。

## 2 女性農業者が活躍できる環境整備

■ 女性農業者のためのワンストップ相談窓口を設置。地域内で気軽に悩みを相談し合える仲間の認知と交流促進。



## 2 地域で活躍する若手農業者を広く紹介

■ 中学生向け農業の啓発パンフレットを作成。キャリア教育で活用できるように県内の中学2年生に配布。

## 3 女性農業者のネットワークづくり支援

■ 県内4地域毎に農業女子会を開催。1地域10名程度の小人数で気軽に悩みを相談し合える仲間づくりの場の提供。

## 普及指導員だからできたこと

- ・定期講座を補完する形で、受講生の相談、現地指導、ビジネスプランの作成支援等きめ細やかなフォローアップを実施。

## 3 女性農業士の増加

■ 平成27年度34名→平成29年度49名



山形県

## 輝くアグリウーマンの育成

活動期間：平成28～30年度

### 1. 取組の背景

山形県の農業就業人口の45.3%は女性であるが、高齢化が進行しており、40歳未満の女性農業者はわずか2.1%のみであり、地域で若い女性農業者は孤立しがちである。

一方、農業発展のためには、消費者志向を踏まえた生産・販売、加工品開発等、女性ならではの柔軟な発想による農業経営の展開が必要である。

そのため、女性農業者の活躍が不可欠であり、経営管理能力の向上を支援するとともに、関係機関と連携し、女性農業者が活躍しやすい環境の整備と女性農業者の増加に向けた取組み及び育成が必要である。

### 2. 活動内容

#### (1) 若い女性限定の講座を開設

##### ①アグリウーマン塾の開催

県全域から概ね40歳未満の意欲的に経営に参画している若い女性農業者を募集し、年5回のビジネスプランを作成する講座を開催した。講師は、中小企業診断士に依頼した。

・女性農業者の成功事例の発表を題材にしたグループ討議や個別演習、「ビジョンカラージュ」の作成等女性が取組み易いよう講座内容を工夫した。

・イメージしやすいように先進的な女性農業者の視察研修を実施した。

・定期講座のほか、オプション研修として先進的な女性経営者の基でのインターンシップを盛り込んだ。

②女性限定の農業機械管理、操作研修を開催した。

③普及課では、受講者毎に技術担当と経営担当の普及指導員を支援担当者として配置し、支援体制を整備した。

ビジネスプランの作成を支援するとともに、その実現へ向け、総合的な個別支援を展開した。



## (2) 地域で活躍する若手農業者を広く紹介

将来の職業について考える「キャリア教育」を始める中学生向けに「農業」魅力を伝える啓発パンフレットを作成。

県内の中学2年生に配布した。また、県の農業情報サイト「やまがたアグリネット」にも掲載した。

## (3) 女性農業者のネットワークづくり支援

女性が活躍しやすい環境を整えるため、公益財団法人やまがた農業支援センター内に女性のネットワークづくりを支援する窓口を設置。

電話相談のほか、各地域において研修会、学習会の開催を通じた女性のネットワークづくりを支援した。



## 3. 具体的な成果

### (1) 若い女性農業者のビジネスプランの作成による経営力・営農意欲の向上

18名がビジネスプランを作成し、プランの実現に向けた実践支援を通し、将来の地域農業をリードする役割を担う女性農業者の経営力・営農意欲が向上した。若い女性農業者同士の交流が図られ、仲間づくりが進展した。

### (2) 女性農業者が活躍できる環境整備

女性農業者のためのワンストップ相談窓口を平成29年4月27日に開設。H29年度は77件の相談があった。

また地域内で気軽に悩みを相談し合える仲間の認知と交流促進を図るため県内4地域で研修会・地域学習会の開催を通じた農業女子会を開催。1地域10名程度の小人数で開催したことにより、気軽に悩みを相談し合える仲間がいる安心感、相互研鑽、農業に関するモチベーションが向上した。

### (3) 女性農業士の増加

地域のリーダーとなる女性農業士が34名から49名と増加した。受講生からも青年農業士が誕生した。

## 4. 農家等からの評価・コメント

私は、経営に必要なスキルを身に付けるために塾に参加しました。演習や発表を通して、ビジョンを持つこと、その実現のために現状を分析しつつ、経営プランを見直していくことが大切だと思いました。

最終回の発表では、皆さんの話を聞いて、多様な生き方があると感じました。塾では、大切な学びと仲間を得ることができ、貴重な体験ができました。

(受講生 真室川町 新田祥子)

## 5. 普及指導員のコメント

塾生は、我が家のSWOT分析等を通し、経営状況の確認や課題の抽出、事業計画の作成など、経営者としての考え方や経営管理手法の基本を学ぶことができた。農作業や家事・育児に追われ、我が家の経営をなかなか俯瞰することができないことが多い中、この塾に参加することで、少し立ち止まり、自分が目指す農業経営は何かを考えることができた非常に貴重な時間であった。

また、塾を通して他地域の女性農業者と交流し、塾が終わってからも連絡を取り合い、悩みや想いを語り合える「仲間」という大きな財産を得ることができた。

今後も、塾と共に、当管内で開催している女性農業者の研修会・意見交換会を通して、女性農業者の経営参画や仲間づくりを支援していく。

(最上総合支庁農業技術普及課 経営企画専門員 田口奈津子)

## 6. 現状・今後の展開等

### (1) 若い女性限定の講座の開催を継続

引続き、アグリウーマン塾を継続開催し、地域の核となる若い女性農業者を育成・確保していく。

修了生に対し、フォローアップ研修会を2回開催し、作成したビジネスプランの進捗状況を確認するとともに、プランを見直し、交流を深める。

## (2) 中学2年生に対し、農業の啓発パンフレットを作成・配付

H29年度に作成した啓発パンフレットをH30も増刷し配付する。将来の職業を考える「キャリア教育」のタイミングとなる中学2年生向けに、生き生きと活躍する女性・青年農業者の姿を発信することで、農業への理解を深めるとともに、農業が「魅力的な職業」であることを伝え、将来の職業の選択肢の1つとして「農業」を考える契機となり、新規就農者の拡大につなげる。



## (3) 女性農業者のネットワークづくり支援

引続き、ワンストップ相談窓口を設置するとともに、県内各地におけるネットワークづくりを支援し、地域における活躍、新たな取組みを創出し女性農業者が活躍しやすい環境づくりを推進する。